



同時開催

鬼の眼 土門拳の仕事

ほんもの!! 真実に
こだわった仕事の
全貌を俯瞰

(上)母のない姉妹 (下)平等院鳳凰堂阿彌陀如来坐像見上げ

●第12回「わたしのこの一枚」写真展

展示: 10月1日(日)~10月22日(日)

作品募集: 8月13日(日)~9月18日(月・祝)

●ミュージアムコンサート

AUTUMN JAZZ LIVE

日時: 10月28日(土)午後4時~(40分予定)

出演: YOSHIKO with JAZZ FRIENDS

第36回 土門拳賞 受賞作品展

Seung-woo Yang

梁丞佑

EVENT

9月16日(土) 午後2時~

土門拳賞受賞作家

梁丞佑氏ギャラリートーク

参加無料
(要入館料)

新宿 迷子

2017

9.17.2017

— 休館日 —

12/4 (月) 12/11 (月) 12/18 (月)

10月1日(日)
開館記念日
無料開放

小銭をくわえたカラス
2005年

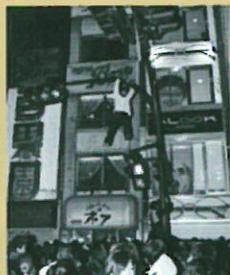
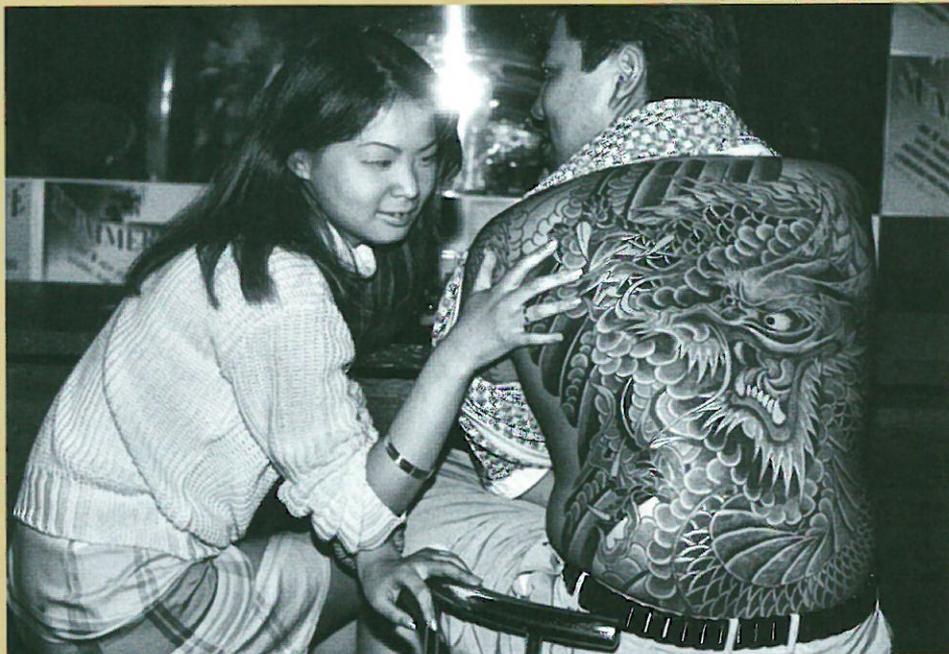
Ken Domon Museum of Photography
土門拳記念館

山形県酒田市飯森山2丁目13 (飯森山公園内)
TEL/FAX 0234-31-0028
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>

入館料 一般430円、高校・大学生210円、中学生以下無料
開館時間 午前9時~午後5時 (入館は午後4時30分まで)
会員券 (1年間有効) 随時受付、特典あり



1998年から2014年にかけて新宿・歌舞伎町の路上で撮影された「新宿迷子」(禪フォトギャラリー)は、夜の新宿・歌舞伎町を居場所とする人びと、またそこで起こった諍いを捉えたスナップ・ショットの集大成。モノクロームで写し撮られた人々からは裸のままの人間の姿が浮かび上がり、読者を街と人間のもつ強烈な「臭い」に引き込ませた。



新宿駅東口前、ミレニアムカウントダウンの後で(2000年)



風林会館の横路で(2000年)



騒ぎを起こした者を葦シートでぐるぐる巻きにして連行(2001年)



コマ劇場前の広場でダンボールの上で寝ている子(2003年)

誰に何を言われる事も無く、一人自由に何かをできるのではないか。この国に住みたいと思った。そして写真に出会った。映画でも良かったが、一人ではできないし、絵画の才能は皆無。妄想しながら黙々とつくる写真は私にぴったりだった。学生の間は奨学金、賞金、バイト、学校

何も分からず日本に来てから丸20年。初めてこの国で見た風景は、一見ソウルとあまり変わりない東京の景色だった。しかし、その街の中にはカルチャーショックがたまっていた。牛丼屋で黙々と一人でご飯を食べ「ちそうさま」と言って帰っていく人々。肩をぶつけて合いながら、狭い飲み屋で楽しそうに過ごす人々。規則正しく礼儀正しい。堅苦しいかと思いきや、自由。

土門拳賞受賞のことは好きで続けた20年

自分がやっている事が果たして何の意味があるのか時々不安になった。表面的なインパクトのせいで、写真の内側をちゃんと見てくれないのではないか。この作風と外国人だということ、心の隅に「自分は無理だろう」という気持ちもあった。

賞を頂けた事で、そのもやもやが全て吹き飛んだ。学生の頃からあこがれていた賞だった。きちんと評価してくれる国なんだと思った。これを機に日本でも写真をやっている外国人や、自分の作風に確信が持てないまま写真が続いている方々の勇気に少しでもつながれば、好きという気持ちだけで続けてきた20年。自分の写真の向上にいっそう精進してまいります。

梁丞佑(ヤン・スンウー)

1966年韓国生まれ。96年来日。2000年日本写真芸術専門学校卒業。04年東京工芸大学芸術学部写真学科卒業。06年同大学院芸術学研究科修了。01年、05年上野彦馬賞(日本写真芸術学会奨励賞)受賞。写真集に「君はあっちがわ 僕はこっちがわ」(06年)、「君はあっちがわ 僕はこっちがわII」(11年)、「青春吉日」(12年)など。



鬼の眼 土門拳の仕事
没後26年を経て、昨年末新たに出版された写真集から143点を展示。激動の昭和という時代に、強烈な個性とこだわりを持って貫いて、ここに生きる日本人、そこにある現実社会を撮り続けた土門拳。同時に彼は独特の美意識で伝統文化や古寺に視線を向け、連続と続く日本人の心を追求し続けたのです。常にほんもの「真実」にこだわり「写真の鬼」と呼ばれた男が見つめた先にあるものを、鑑賞ください。



水谷八重子



逮捕連行される学生

土門拳賞とは【毎日新聞社主催】

リアリズム写真を確立した巨匠・土門拳の業績をたたえ、1981年(昭和56年)に毎日新聞社により設立された、日本でも有数の権威ある写真賞です。毎年1月から12月までの間に作品(写真集、展覧会など)を発表し、優れた成果をあげた写真家が受賞の対象となり、その受賞作品は土門拳記念館にパーマネントコレクションされます。

土門拳記念館展示情報 2017

2017年9月1日(金)～12月24日(日)

主要展示室

企画展示室Ⅱ

鬼の眼 土門拳の仕事

カラー27点・モノクロ116点

没後26年を経て、昨年末新たに出版された写真集から143点を展示。激動の昭和という時代に、強烈な個性とこだわりを持って一貫してそこに生きる日本人、そこにある現実社会を撮り続けた土門拳。同時に彼は独特の美意識で伝統文化や古寺に視線を向け、連綿と続く日本人の心を追求し続けたのです。常にほんもの＝真実にこだわり「写真の鬼」と呼ばれた男が見つめた先にあるものをご鑑賞ください。

企画展示室Ⅰ

第36回土門拳賞受賞作品展

梁 丞佑『新宿迷子』

モノクロ 50点

第36回土門拳賞(毎日新聞社主催)は、梁丞佑(ヤン・スンウー)氏の写真集『新宿迷子』(禪フォトギャラリー)です。受賞作は1998年から2014年にかけて撮影された、夜の新宿・歌舞伎町を居場所とする人びと、またそこで起こった諍いを捉えたスナップ・ショットの集大成。

モノクロームで写し撮られた人びとからは裸のままの人間の姿が浮かび上がり、読者を街と人間のもつ強烈な「におい」に引き込ませました。

特別企画

参加無料(要入館料)

土門拳賞受賞作家 梁丞佑氏ギャラリートーク

9/16(土)午後2時～

ミュージアムコンサート

参加無料(要入館料)

AUTUMN JAZZ LIVE

10/28(土)午後4時～

出演: YOSHIKO with JAZZ FRIENDS

第12回「わたしのこの一枚」写真展

展示: 10/1(日)～10/22(日)

作品募集: 8/13(日)～9/18(月・祝)

土門拳記念館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山二丁目13番地(飯森山公園内)

TEL/FAX: 0234-31-0028 <http://www.domonken-kinenkan.jp/>